

令和5年度3月号 [3月15日(発行)]



東風だより

川口市立東中学校
川口市東本郷2-20-47番地
TEL 048-281-4065
特別支援学級 285-2423
さわやか相談室 281-4627
<http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/higashi-j/>

信じる

校長 柳田 勇

本日の門出を祝うかのような晴天の中、第77回卒業証書授与式を開催できることになりました。2日前に行われました卒業式予行で、77期は、在校生に卒業生としての立派な姿を、所作や合唱で示してくれました。在校生は、1・2年後の自分の姿を重ね、予行に参加していた生徒が多かったと思います。そのことを感じさせる行動に、昨日の準備があげられます。一人ひとりが自分に与えられた役割を、黙々となす姿は、本日の卒業式が盛大に開催されること願い、こちらもまた、態度で示すものでした。ここ数日、東中生の大きく成長した姿を見させていただいております。

私にとって、校長の立場で参加する初めての卒業式を迎えます。今まで様々な立場で式に参加してまいりました。どの立場でも、その時々で緊張はしていました。しかし、本日の式は、今までとは少し違うものを感じております。それは、卒業式というのは、あらためて式に係わる全ての人にとって、意味のある式であることを再認識させていただいているからです。

義務教育を終えることは、社会にでることを意味しています。保護者の皆様にとっても一つの区切りとなるものです。成人年齢も18歳に引き下げられ、生徒たちは自分が思っている以上に、大人になることが求められています。そして、地域の皆様にとっても、新郷地区を支えていく仲間が増えていくこととなります。私たち教職員も、生徒たちへの今までの指導や、生徒への想いが届いているかを確認する最後の場でもあります。

様々な立場で参加される卒業式に、校長としてできることは「信じる」ことしかないと思っております。卒業生は、自分の立ち振る舞いで、それぞれの人に想いを伝えることでしょう。そして、それを見守る教職員がおり、滞りなく式が行われると思って参加される保護者・地域の皆様がいます。また、在校生は予行で卒業生を見送りました。この様なそれぞれの想いの中で行われる卒業式は、厳粛に行われて当たり前であり、またそうでなければならぬと思っております。77回目に実施される卒業式は、今までの式と比べるものではなく、今日の式こそが皆さんにとって最高の卒業式になると信じております。しかし、校長としてできることは、無事に行われることを信じ、見守るだけです。信じることの重さが、今の私に大きくのしかかっております。

義務教育最後の卒業式は、経験した大人にはわかることですが、大きく環境が変わっていく始まりでもあります。生徒の進む道は、まだまだ試練だらけです。保護者・地域の皆様には、いつまでも生徒のよき理解者でいただけたらと存じます。そして、校長としては、その試練を乗り越えるため身に付けた、校訓「賢く・優しく・逞しく・美しく」を力に、進んでくれることを信じています。

これから、第77回卒業証書授与式が、盛大に始まろうとしております。